

TX沿線区画整理事業—事業費不足26億円

総無責任体制：最後は公費で補てん

千葉県は今年2月、地元地権者などに向けた説明会を開催。木地区（H10年度～）の事業期間をH30年度末から、H32年度9月末へ延長し、事業費不足26億円を県と市で折半するとしました。

流山市のH30年度一般会計予算にも、この一部が盛り込まれています。そのため、H30～H32年9月末までの市負担額総額は約15億円にも。これでは、H

30年度予算が過去最大規模であっても、市民の福祉や教育に計画性をもって、積極的な施策展開が難しくなります。

そもそも、県が計画し、県が住宅供給公社に丸投げし、事業進捗の厳しさを理由に公社から県が引継ぎ、県が実施してきた責任を問われず、公費で補てん：無責任体制をはなほだしいです。

事業費不足はこれで終わらない!? 運動公園地区はさらに深刻

しかし、木地区の事業費不足はこれで終わらない可能性も。事業費の一部にあてる住宅用地販売収入は、H32年9月末まで、72000㎡（約2万2千坪）を111億円（1平米15万4166円）で売り切らなければならぬからです。残った場合は、県市で折半となりかねません。

雨水管100%。運動公園地区の公共下水道は、汚水管が33.7%、雨水管が38.4%です。昨年秋の説明会で住民に約束した「今春までにH30度以降の事業展開を示す」ことも守られませんでした。

流山セントラルパーク駅周辺の県施行運動公園地区（H10年度～）の全体面積は、木地区の約3.4倍。事業費は2.5倍です。

一方進捗率は、H29年度末見込みとして、木地区の公共下水道整備は、汚水管84.8%、

5年後のH34年度末で事業終了という予定とは裏腹に、20年間で3割

台：100%整備には何年かかるか見通しはたっていない



小田桐たかし

日本共産党市議会議員

知恵を出し
合いましょう

市内バス交通のあるべき姿

高齢化の進展、高齢者による免許返納の増加、民間バスの減便、病院バスの廃止・減便：市内バス交通網の充実・強化が市内各地で求められています。

市長の思い込みが誤りの原点

市議会予算委員会の争点の一つに、市内バス交通の在り方・今後の方向性が浮上りました。

を強調しました。

しかし、事業費の半分を税金で補てんし、定額制（1回150円）の

おたかの森駅西口～美田・駒木台を循環するぐりーんバスについて、1便から2便体制にする予算161万7千円（H30年度予算ではH31年3月分のみ）が盛り込まれていたからです。

「市内でバス交通に不均衡はない」という市長の思い込みがあるからです。

市長は、増便の理由を「①40分毎に1本では時間が覚えにくい。②帰宅時間に合いづらい。③現行方式でも収支率60～70%あり、需要が高い。④ルート変更や離発着場所の変更など実験をしたが、時間短縮は出来なかった」と答弁し、正当性を強調しました。

本来なら、健康施策や地元消費など市政全体を俯瞰した施策展開が必要ではないでしょうか。

市民の納得は得られるのか？

ぐりーんバス美田・駒木台ルートは、導入前に地元5自治会長が連名で要望書提出に続き、5会派の議員（松尾澄子議員、海老原功一議員、藤井俊行議員、菅沼樹夫議員、小田桐たかし議員）も連名で要望書を出し、行政と一緒に汗を流し実現してきました。

ロー体制が不十分な中、市民の理解は得られるでしょうか。

そもそも、2020年から始まる新『総合計画』にむけ、この2ヶ年は過去20年間を総括する時期であることから、制度展開には慎重を期す姿勢が必要でした。それでも増便導入は、総括そのものもゆがめてしまいかねません。



今回は要望書もなく、H31年度からは、増便分だけで1年分約720万円を投入。病院バスを利用した高齢者移動支援への補助金の10倍です。妊産婦・新生児訪問業務委託498万円、育児ヘルパー派遣委託20万円、産後ケア業務委託393万円、増え続ける子どもやママへのフオ

超高齢化社会の到来なら、それにふさわしいバス交通の充実で、地域の隅々に光を当てられるよう、一緒に力を合わせましょう。